

# 中山間地・自立モデル検討事業(中山間地・自立モデル検討コンソーシアム)

## ■都市課題

中山間地域では、交通インフラの縮小と交通弱者の増加が同時に発生。デジタル技術を活用し、高齢者が利用する移動サービスを維持し続けることが課題。

## ■解決方策

地域住民自ら出資した自治的な組織等が、デジタル技術を活用することで、移動サービスを維持し、社会経済的に持続可能な中山間地域のまちにすること。

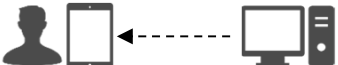
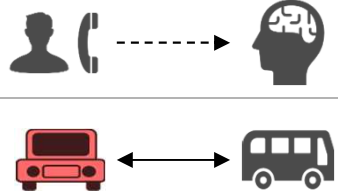
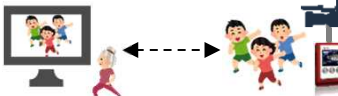
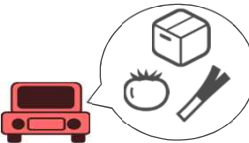


## ■KPI

自治的な組織等の2025年時点での黒字化(様々な事業の収益や行政の補助等を含む)。本年度は、前年度比利用数1.2倍、ドライバー数1.3倍を目指す。

## ■実証実験の概要・目的

本年度の実証実験では支えあい交通の売上増加を目的として、「①サービス認知度の向上」、「②サービス利便性の向上」、「③サービスの利用目的の創出」や、「④旅客運送以外の売上を目的としたマルチプロフィットなサービス提供」の取組を実施。

## ■実証実験の内容

売上増加	認知度向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域情報配信システムによる情報発信</li> </ul> 
	利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間、AI電話予約受付システム</li> <li>バスとのシームレスな乗り継ぎ</li> </ul> 
	移動目的創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル技術により遠隔地をつなぎ、地域でイベントの参加機会を創出</li> </ul> 
	マルチプロフィット	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物代行実現に向けた簡易実験</li> <li>農作物出荷代行の可能性検証</li> </ul> 
運営改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域情報配信システムを活用したドライバーマッチング</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間、AI電話受付システム</li> </ul> 

## ■実証実験で得られた成果・知見

KPI	(対前年度) 利用回数	約2.0倍	ドライバー数	約1.4倍
売上増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動目的創出のイベント実施により、イベント1回あたり、支えあい交通の利用回数は3.4回増加した。</li> </ul>			
デジタル技術受容性	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組で利用したデジタル技術を用いたサービスは、利用者からは受け入れられた。</li> </ul>			
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライバーマッチングシステム等を活用により、支えあい交通運営の業務負荷を減らすことができた。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>支えあい交通を持続可能なサービスとして提供するためには、業務負荷や収益性に課題がある。デジタル技術等を活用し、収益改善等に取組む。</li> </ul>			

## ■今後の予定

2025年の自治的な組織等の黒字化(公的支援等を含む)に向け、売上増加、費用低減等に取り組む、効果を検証する。

